

1 本年度の学校経営を振り返って

6年目となる「礼儀・礼節を重んじる指導」は本校学校経営の重要な柱として定着し、「あいさつがよい」「身だしなみが整っている」「基本的なマナーが身に付いている」など、保護者や地域の人たちからの評価につながっている。「立腰」と「部活集合」はその指導の中心であるが、生徒は意識を高くもちその実践に努め学校生活を規律あるものにしており、落ち着いた学習環境づくりにもつながっている。さらに、生徒は生徒会活動や委員会活動において非常によく取り組み、主体的で充実した活動ができています。学校行事や部活動、ボランティア活動についてもここ一番に力を発揮して団結する西中生のよさが十分に発揮され成果をあげている。

学習指導については落ち着いて授業に取り組み、一生懸命頑張っている。しかし、必ずしも成果につながっていない面がある。さらなる「分かった・できた」を実感する授業づくりに向けて努力が必要と考える。また、学ぶ意義や大切さについて、将来にわたってのキャリアアップという視点及び夢や目標の実現と結び付けて意識付けする必要があると感じている。さらに、しっかりと授業の延長上に家庭学習を位置付け、学習時間の確保や一人学びができるようにして、いわゆる「自学力」の向上に努め、知識や技能の確実な定着につなげたい。

本年度は教育相談において、全職員の連携のもと、一人一人の抱えている悩みや状況に応じて丁寧に対応することができたと考えている。また、スクールカウンセラーやすくうる・みらい、スペース・イオなどの関係機関との連携がうまく図られた。ただし、スクールカウンセラーについては時数が限られていることから、その効率的な活用は今後の課題である。また、今後は教職員の教育相談における指導力の向上や機会の充実がさらに必要と考える。来年度も粘り強く生徒や保護者と関わっていきたい。

2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
教育 課程	生徒の自主性を大切にし、「誇りと自信」に満ちた感動あふれる学校行事の実践	・教師アンケートでは教育課程に関する評価が高い。学校行事や学年行事の計画立案に時間的余裕を持って取り組むことができたことから、生徒の主体的活動を導き出すことができている。 ・行事の意義を共通理解することに課題がある。	A	・行事におけるねらいや意義が、教育目標及び目指す生徒像の実現に向けたものとなっているか、今一度全職員で協議するとともに、共通理解を図る機会を設定する。	・本校生徒は各種行事を通して団結力を発揮し、互いを認め合い成長してきたことが随所にかがわれる。今後も生徒の発想を生かした取組の充実を期待する。
	総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育の視点に立った活動の充実（職場訪問・職場体験活動、自己啓発につながる講話会や講演会等）	・「若鷺交流発表会」を全学年縦割りで実施することが、3年生の自覚を高めるとともに、下学年の手本となり、活動の充実につながっている。 ・生徒が主体的に課題を見付け、解決していこうとする学習の充実が課題である。	A	・「若鷺交流発表会」を中心とした学習になっていることから、3年間を通じたビジョンをはっきりさせることが必要である。 ・地元新屋地区に限定して学習を進めることを継続し、課題を見付ける力を育てる。	・地域密着型の総合的な学習の時間の展開は地域貢献という視点からも意義深いものである。 ・将来への動機付けの機会として、全校生徒が一堂に会した講話会等の開催を望む。
学 習 指 導	生徒が「分かった・できた」を実感する授業の構築	・全国学力・学習状況調査等の各種調査において、「学校の勉強がわかる」と回答した生徒は、県平均を下回っている。 ・学習形態を工夫するなどして昨年度の課題であった「言語活動の充実」を目指したものの、引き続き指導する必要がある。	B	・生徒の実態を的確に把握した上で、「授業づくりの五つの視点」を意識した授業づくりを展開するとともに、教科の枠を超えた授業参観等、より一層の授業改善を目指す。 ・学校教育活動全般において「言語活動の充実」を図るよう、きめ細かな指導・支援をする。	・学力定着のための9年間を見通した小中一貫した考えに立った指導体制づくりを確立するとともに生徒の学習意欲を喚起する授業展開の工夫がより一層望まれる。
	学習習慣を確立し、自学力を向上させる指導の充実と家庭学習への意欲向上	・年2回の「若鷺の学習自己評価」により、学習習慣の定着の一助となった。 ・各学年の実態に応じて「家庭学習の手引き」を作成し、家庭学習の具体的な進め方の指導をした。今後も継続し、自学力の向上を目指すことが必要である。	B	・「若鷺の学習」の評価結果を委員会活動と連動させ、生徒主体で向上していこうとする意識を高めていく。 ・長期休業中や定期テスト前の学習相談・質問教室の効果的な運用を目指す。 ・習得した知識を確実に定着させるための家庭学習の充実について、「家庭学習の手引き」の紹介や読み込みなど、保護者との連携を強化する。	・自主学習に対する生徒の意識を高揚させるために、生徒がその必要感を実感するための仕掛けが必要と思われる。 ・「家庭学習の手引き」は保護者を啓蒙するものの一助となることから、今後も継続したい。

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策	学校関係者評価の意見
生徒指導	学級を基盤とした豊かな人間関係の構築と、お互いに認め合い高め合うとする集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳、特別活動、学校行事やボランティア活動、グループエンカウンター等の機会を捉えて指導した。 ・Q-U検査や「若鷲の礼節自己評価」「県学習状況調査質問紙」の調査結果より、集団として向上しようとしている様子がうかがわれた。 ・個や集団が今まで以上に人間関係を広げたり深めたりできるように支援していくことが課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な人間関係を構築するために必要な「安全で安心できる学校生活」ができるよう、より一層の「礼儀・礼節」指導の充実を図る。 ・学校生活の様々な場面を捉えて、互いを認め、高め合える機会の充実を努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校段階から自己肯定感を高揚させるボランティア活動をはじめとする教育課程の編制及び授業改善に期待する。
	生徒指導の三機能（自己存在感・自己決定・共感的理解）を生かした指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「礼儀・礼節」を指導の柱とした日常の生活指導や自治的活動を通して、「ルールを守る」「地域の一員としての自覚」「社会で通用する力」が身に付き、落ち着いた学校生活を送ることができた。 ・各種調査により浮き彫りとなった自己肯定感の高揚及び将来への夢と希望を持てるような支援が必要である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「礼儀・礼節」の指導が形骸化しないよう、より生徒の実態に応じた指導の充実を図る。 ・学校内外でのボランティア活動や生徒会活動の活性化などにより、自己肯定感をさらに高めるようにする。 ・将来への希望が持てるような講話会等の開催により、生き方指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「礼儀・礼節」を基盤とした本校の教育活動は高く評価できるものであり、今後も社会に生きて働く人材育成のために継続してほしい。 ・キャリアのある方からの講話会を実施するなど、その機会の充実を図りたい。
	いじめ・不登校対応として、生徒や保護者に寄り添い、触れ合いを大切にした相談活動の充実（いじめ防止の取組の充実）	<ul style="list-style-type: none"> ・「秋田西中いじめ防止基本方針」に基づき未然防止、早期発見、即時対応に努めることができた。また、教育相談担当を中心に養護教諭やスクールカウンセラーと連携を密にすることにより、積極的な相談活動を展開することができた。 ・学校での「いじめ対応」の状況が保護者に伝わりにくい点があった。 ・不登校については、3年生が改善傾向にあるものの、1、2年生に課題が残った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「いじめ防止基本方針」のもと、組織的な対応を推進するとともに、その内容を生徒指導等々で学校の内外に広く周知する機会の充実を図る。 ・不登校（傾向）の生徒や家庭の状況を十分に把握するとともに、より親身できめ細かな相談活動、組織的対応をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ等大きな事案が生じていないということは、生徒と教職員との日常の信頼関係が構築されているということの証であり、今後も教職員の危機意識を高め、親身な対応を期待する。 ・各種アンケートを無記名にするなど、より情報収集しやすい環境づくりも考えていきたい。
家庭・地域と連携	保護者への積極的な情報提供と、相互の連携を重視した教育活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでの最新情報の掲載や十分な進路情報の提供に課題がみられた。 ・「あいさつ運動」や「学校祭PTA合唱」等PTA活動においての参加者数は増加しているものの、内容がやや前年踏襲の傾向にあった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初から学校行事等を早めに周知するとともに、全学年に適時、進路に関する情報を提供する。 ・保護者にとっても魅力ある活動となるよう、PTAと学校が連携し、開催時期や内容等について協議する場を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「若鷲交流発表会」等、全ての生徒の活躍の場が保障されている機会の充実を図るなど、学校に保護者を呼び込む一層の工夫が望まれる。
	地域行事への積極的な参加。地域の素材や人々と触れ合うことでふるさとを見つめ直す機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度同様、「雄物川花火大会」や「日吉山王祭」等への積極的な参加により、地域との交流を深めることができた。 ・保護者アンケートにおいても、学校と地域とのつながりが例年以上に高く評価された。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間での地域探訪と地域行事とを関連づけるなど、より深まりのある取組となるよう工夫する。 ・ひと・もの・ことの全てにおいて地域との関わりをより一層深めることができるよう、地域行事への参加を教育課程に明確に位置づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒による地域行事への貢献度は大きいものがあり、地域の活性化にも一役かっている。学校と地域とがWin-Winの関係を保ち、今後も一層連携を強化していきたい。
健康・安全教育	自身の健康に関心をもち、その保持増進に関わる自己管理能力の向上 交通事故や不審者対応、災害時の対応等での危機管理能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携し、様々なテーマで講話会や講座等を開催することにより、命の大切さについて考える機会の充実を努めた。 ・インターネットを介したトラブルが発生するなど、保護者を含めた情報モラル教育の充実が喫緊の課題ともいえる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と保護者、学校がネットトラブルの防止について共通理解を図るための、より実効性のある取組を展開するなど、生き方指導の充実を図る。 ・随時各種マニュアルの見直しをしたり訓練を実施したりすることにより、教職員の危機意識の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット利用時間の規制化を図るなど、学校が積極的な姿勢を示すことにより、保護者も対応しやすくなると思われる。 ・情報モラル教育の充実のために、全職員の資質向上が望まれる。